

いおくニュース

2017年4月号



■プロフィール■

猪奥美里（いおく みさと）
 1980年奈良市秋篠町生まれ
 平城小学校・平城中学校／ドイツギムナジウムジーク留学／奈良大学附属高等学校／立命館大学・立命館大学大学院（環境経済学専攻）／衆議院議員秘書
 2011年奈良県議会議員初当選
 2015年4月2期目当選

◆ 総務警察委員会
 観光振興対策特別委員会
 議会運営委員会 委員

■ 2月本会議代表質問

先月号に引き続き、今月号も2月の代表質問の主旨&成果について報告します。

■ 公立高校の制服の値段、価格差2倍！

奈良県の公立高校の制服はそれぞれの学校やPTAでデザインや製造業者、販売業者を決めています。

実は、学校によって価格に大きな違いがあることをご存知でしょうか。昨年10月の決算審査特別委員会で私が初めて

取り上げるまで、公立学校の制服の価格は他校同士で比較されることもなく当事者である学校関係者だけしか知りませんでした。

県教育委員会でさえ各学校の制服の価格を把握していませんでした。そこで、10月決算委員会で学校ごとに制服の値段に違いがあることを指摘し、その後初めてすべての県立学校の制服、靴や体操服などの値段の調査が行われました。

その結果、学校間において価格差が2倍もあるということが明らかになりました。

具体的に価格差が大きくなりやすい女子冬服一式で、最も安い2万4400円に対し、最も高い価格は5万2900円とまさに2倍以上だったのです。

■ 価格差の原因

公立高校の制服なのに発生する価格の差は、多少のデザインの違いや生地の違いだけでこれほどの差が出るとは考えられません。契約の方法による違いが大きいと考えます。最も制服価格が安い高校は3年毎に入札を行っていました。一方、最も制服価格の高い高校は一者随意契約となっていました。本来、民間と公共との契約は入札により行われるべきです。この高校のみならず一者随意契約の高校は64%、契約の見直しをしていない高校も52%にも上りました。中には、開校以降30年近く見直しがなく、随意契約が続いているケースや、

同じ製造業者が同じようなデザインや生地で作った男子生徒用の学生服で大きく価格が異なるケースもありました。

先ほど例に挙げた女子冬服の一番価格が高かった高校で、シャツの着替えや夏服や指定の靴など制服一式をそろえると、8万8200円。これに指定の体操服や上履き等を加えると、なんと10万を超える金額となります。

いま6人に1人が子どもの貧困と言われています。連鎖する貧困を断ち切るために大切なのは教育。そんな中であって、学校の教育現場において学校が指定する制服の契約に関してなんら努力が行われていないことによって、家計を圧迫している実態があるのです。

■ ガイドライン作成へ

決算委員会、2月本会議での質問を受け、公立高校の制服契約に関するガイドラインの作成が決定しました。このガイドラインで各学校に「学校指定物品検討委員会」を設置することが明記されました。ここで、指定物品の必要性の点検や見直し、選定理由や決定の経緯等について明らかにする事が求められるようになります。

そもそも「指定の必要性があるか」から始まり、「市場でより安く買えないか」や、「指定理由を生徒保護者に説明ができるか」これらの協議から、透明性、保護者負担の軽減につなげてまいります。